

手術時間が短い・患者さんの体への負担が少ない

神経内視鏡手術とは？



三愛病院 脳神経外科
わたなべ たけひろ
渡邊 丈博 医師

神経内視鏡手術は、脳の中に直径3～5mmの細い内視鏡を入れて脳の中の病巣を直接観察しながら行う手術のことです。手術時間は開頭手術に比べ半分程度と短く、患者さんの体への負担が少ない低侵襲な手術の一つです。



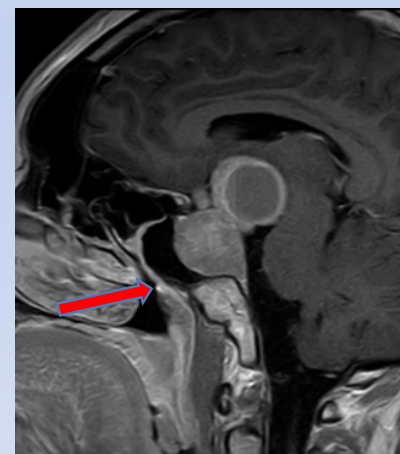
神経内視鏡システム



例えば、脳出血の場合、神経内視鏡を用いる手術では頭蓋骨に小さな孔を開け、周囲を観察しながら血腫を取り除くことができます。

下垂体腫瘍では、鼻腔を經由し下垂体部分まで内視鏡を到達させ腫瘍を取り除くもので、手術の際の鼻の粘膜の損傷も少なく安全に手術ができます。

通常の水頭症シャント手術では、体の中に管を埋め込む必要がありますが、神経内視鏡手術ではその必要はなく、複雑な形態をもった水頭症の患者さんにも威力を発揮します。



下垂体腫瘍(矢印)のMRI画像



神経内視鏡で見た下垂体腫瘍



神経内視鏡手術の実際

これまでの手術用顕微鏡を用いた開頭手術では、どうしても病巣に対して視野が遠くなりますが、神経内視鏡では、より病巣に近接して観察できるため顕微鏡の死角を補ったりしながら治療することが可能です。また近接して横からや裏側からも観察することも可能で、正面からだけの観察より詳細な観察が可能となります。